

北海道医療大学「2023年度 第2回オープンカレッジ in 北海道医療大学」

実施報告書：オープンカレッジ実行委員会

代表 松本悠

委員 吉川かれん 山下紗季

堤ののは 小形若葉

オープンカレッジの目的

障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって教育を受ける権利は基本的人権の一つとして保障されており、すべての人は教育を受けることによって発達や変化の可能性が生まれます。オープンカレッジを通じて、知的障がい等のある人の「もっと勉強したい!」「もっと新しいことをしたい!!」という気持ちをかなえる場を提供します。

実施の詳細

主催：北海道医療大学オープンカレッジ実行委員会

(学生が主体、教員・大学がサポート)

日時：2024年2月12日(土)

午前の部：10:15~12:45 午後の部：13:45~16:15

場所：北海道医療大学札幌サテライトキャンパス

参加者：知的障がいがある方(受講生) 午前：8名 午後：5名

企画運営：学生5名(一部学習サポーター兼任)

学習サポーター：学生8名(兼任合わせ10名)

※学習サポーターは、受講生にマンツーマンで配置



講義・レクリエーションの内容

◎講義「ヤクルトはインドの子どもを救えるのか?」(45分) 講師 米田龍大(北海道医療大学)

→疫学の視点から、インドで行われた実際の研究をもとに世界の健康課題について考えました。研究結果をもとに健康とヤクルトの関連性について学び、受講生さんからも発言をする様子が見られました。

◎レクリエーション「ピンポン運び」(45分)

→くじを引いて、卓球のラケットやお玉、スプーンなどの道具を使い、学生サポーターと協力しながらピンポン玉を慎重かつ速く運び届けました。苦戦する他の受講生さんや学生サポーターに対しても応援する様子が見られ、盛り上がりました。

今回のOCを終えて

今回、引継ぎ等や事前での準備での不十分と感じるものも多く、運営の動きとして至らぬ点もあったため、次年度のためにも、適切な運営をできるように準備してまいりたいと思います。皆様の参加を楽しみにしております。